

金曜日の本

クラフト・エヴィング商会
最新作
2016年3月18日発売
世田谷文学館限定販売
4月5日より通販開始
売切れ次第終了

一人で図書館へ行き、一人で本棚を探り、誰かに薦められたとか話題になっているとか、そういうことに関係なく、一人で本を選んで一人で静かに読む。あの幸福な読書。金曜日の夕方に本を抱えて帰るときの、あの孤独と愉しみがひとつになった思い、その思いを未来にいらっしゃる自分のような読者に手渡したい。

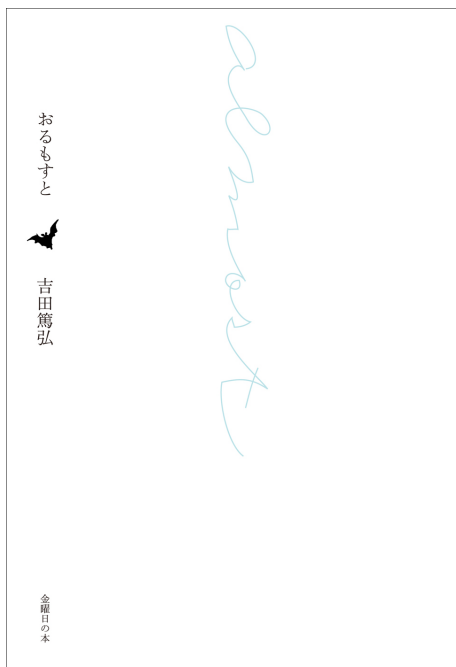
吉田篤弘『『おるもすと』の話のつづき』（『おるもすと』付録小冊子）より

「金曜日の本」とは、2014年に当館で個展を開催した**クラフト・エヴィング商会**（吉田篤弘・吉田浩美）による新たな試みです。本との接し方の原点に立ち返ることを主眼とした取り組みであり、そのために立ち上げた、（架空の）レーベル名でもあります。

当館の活動趣旨とも重なり合う、この「金曜日の本」という概念を具現化するため、**開館20周年記念企画**の一環として、本とレコードを出版しました。**世田谷文学館によるインディーズ出版**です。

本は、著者が**12年間あたたため続けてきた小説**。ひと文字ひと文字活字を組んで、昔ながらの**活版印刷**でつくりました。**レコード**は、短編2作と架空のラジオCM（いずれも吉田篤弘著）を、女優の中嶋朋子さんと俳優の三上哲さんに朗読いただきました。**声**で紡がれる物語をお楽しみください。

デジタルの時代に逆行するような形態ですが、その手ざわりや質感も含め、週末のひと時、読書の喜びの原体験に思いを馳せていただければ幸いです。なお、いずれも数量限定のため、当館のみで販売しております。



おるもすと 著・吉田篤弘

この小説をこの12年間、ずっと書きつづけてきた。
あるいは、この小説をこの12年間、ずっと書けなかった。

1,600円（税込）1,400冊限定 B6判変型 / 72ページ

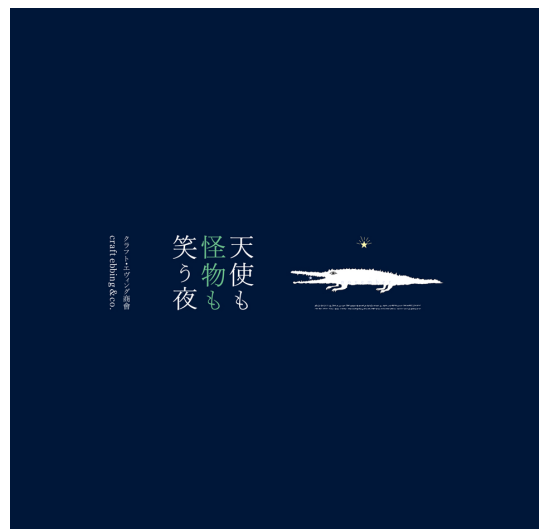
吉田篤弘 よしだあつひろ

1962年、東京都生まれ。小説を執筆するかたわら、吉田浩美と共にクラフト・エヴィング商会名義による著作とデザインの仕事を行っている。2014年、世田谷文学館で「星を賣る店 クラフト・エヴィング商会のおかしな展覧会」を開催。主な著作に『つむじ風食堂の夜』『それからはスープのことばかり考えて暮らした』『空ばかり見ていた』『圏外へ』『ソラシド』『レインコートを着た犬』などがある。

天使も怪物も笑う夜 作・クラフト・エヴィング商会

2,000円（税込）500枚限定 LP / 両面合計約60分 / CD付き

- A1 窮鼠、夜を往く（声・中嶋朋子）
- B1 天国の探偵——ラジオ・スポット a（声・三上哲）
- B2 針がとぶ（声・中嶋朋子）
- B3 天国の探偵——ラジオ・スポット b（声・三上哲）



世田谷文学館

157-0062 東京都世田谷区南烏山 1-10-10 TEL 03-5374-9111 FAX 03-5374-9120
http://www.setabun.or.jp Twitter@SETABUN
「金曜日の本」に関するお問合せ先：学芸部 大竹嘉彦